

ベストクラス選定理由書

作成者：元持典子・信岡椰紗・難波陽菜・小林実生・藤井良憲・野本立人・YE YING・前田水碧

科目名称 教育心理学	
(担当教員名：山中一英・吉國秀人)	
課 程 ： 学部	開講時期 ： 前期
授業形態 ： 講義	授業規模 ： 81人以上
インタビュー対象教員名 山中一英・吉國秀人 (実施日時：9月5日・6日； 実施場所：吉國研究室・zoom上)	
インタビュー対象受講者名 難波陽菜 (実施日時：9月19日； 実施場所：zoom上)	
<選定理由> ・受講者数が多いにも関わらず評価点が高い（論述での回答も多い） ・大学1年生向けの授業として、理解しやすい、大学らしさを感じられる内容 <担当教員へのインタビューより> （吉國先生） ・学生の理解度を意識し、次の時間にフィードバックの時間を設けた。 ・季節のはしり(旬になる前)の植物、かわりもの(自分が珍しいと思う)植物、について教師が提示すると、クラスの中に広がっていくという「はしりだね、かわりもの」の実践から、毎回の授業で植物を紹介していた。（違和感が原動力となり探索するきっかけになる。）身近にある事象の見方を変えられるきっかけになればと思った。 ・学生には「子どものわからないに気づける教師」を目指してほしい。 （山中先生） ・授業で身につけてほしかった力は「物事を批判的に捉える力（クリティカルシンキング）」と「ネガティブコーパビリティ（否定的な状態でいられる能力）」 ・1年生の前期開講という点を重要視しており、身近な事象に対して違う見方を持つきっかけになれる授業を目指した。 ・対象が変われば、立場も変わる。理想の授業は、学生と先生がフラットな関係になれるような課題が生まれる授業。 <受講学生へのインタビューより> ・吉國先生の授業では、発達の基礎を学ぶことができた。 ・山中先生の授業は、学びの方向性がより明確でわかりやすかった。 ・「教育心理学」の授業で学級集団について学んだことで、「集団とは何か？」ということを考えるきっかけになった。 <まとめ> 学生の理解度を意識した授業づくりを目指した結果、高い評価が得られていることがわかる。よって、本授業をベストクラスとして推薦する。	